新しい日常へ
みんなで探る！ 活動の新たな可能性

現在、公民館は新型コロナウイルス感染症のリスクを回避する策を講じ、皆様のご理解とご協力の上で使用いただいています。

誰もが切に願うのは、この状況のいち早い終息。

今、私たちにできること。それは感染症が広がる以前の状態に戻るのではなく、新しい生活様式の定着をはかり、知恵を出し合いながら活動の出来なくなりました。自粛解除後はお話会や音楽を聴きながら簡単なフェイスシールド作りなどして、みんなで笑顔で歌って元気になれる日を待ち望んでいました。しかし、大勢で合唱出来る日は遠のくばかり。そこで悩んだ末、今は合唱に拘らず新しい生活様式を求めることにしました。

君津スマイル合唱団は7月末で一旦休止し、これまで築いてきた絆を大切に「メイキングスマイル」として新たなスタートを切りました。具体的にどのような活動にするのか模索中ですが、笑顔を作り出す、何かを生み出すサークルにしたいと考えています。これまでは歌だけの繋がりでしたが、これを機にそれぞれの得意分野を生かしつつ、メンバーに還元し合いながら上を向いていつの日か安心して皆で楽しく歌える日を待っています。

上を向いて歩こう！
君津スマイル合唱団改め メイキングスマイル　御船　八重子

今だからこそ
遊びサポーターぐるんぱ　T.H

私たち“遊びサポーターぐるんぱ”は、未就園の親子を対象に、遊びの場の提供や遊びの出前を行っています。絵本の読みきかせやごっこ遊びをしたり、親御さん同士の情報交換の場にもなっています。例年、10組程度の親子を対象としていますが、今年度は公民館の定員もあり、新規募集はせず6組の親子と過ごさせてもらっています。

活動では、部屋内で親子ごとに距離をとり親子でできるような遊びを取り入れています。1時間ちょっとの活動で、毎回子ども達から笑顔や元気をもらいます。

自由に人と会ったり遊んだりということができない今だからこそ“ぐるんぱ”で楽しいひとときを過ごしてもらいたいと思っています。これまで通り、そんな居場所作りができたらいいな…。これが私たちメンバーの想いです。

じゃあどうしようか
ヨガ／手芸／盆栽　村松　里子

「じゃあどうしようか」よく仲間と交わす会話です。今、公民館の使用には活動時間や定員など制限があります。でも私達には「活動をやらない」という選択肢はありませんでした。「じゃあどうしようか」と前向きに意見交換し、会員を2班に分けて2部制にしたり、月額だった会費を1回毎に変えたり工夫しました。様々な課題は出欠確認を徹底し入数把握を行うこと等で克服できました。館の使用制限は利用者の健康を守るために設定されています。

展示、人と距離を置いて開催できる様に工夫したりしていろいろな事にもチャレンジしていきたいと願います。

文化祭、ギャラリーでの「なんで使えないの。これ簡単。でも何かが起き、再び休館で使用できなくなるのはみんなが困ります。」最近「慣れと油断」が怖いと感じます。今一度、各サークルでの3密・マスク・換気・消毒を徹底しませんか。これからも私達はできないことを嘆くより、できる範囲で工夫し譲り合い、今できることを楽しみながら活動していきたいと思います。

チャレンジ！
絵画サークルひまわり　正木　佐智子

絵画サークルひまわりは7月からサークルを再開しました。

私達は、間隔を空けて静かに描いています。以前はおしゃべりをしながら楽しく描いていました。

人と人が距離を置く…ちょっと淋しい気がします。

なんとなくサークル活動を過ごしていましたが、これからは目標をもって頑張りたいと思います。

詩吟とコロナ
誠吟会　小倉　正子

詩吟の錬成を中心に活動を行っています。

コロナ自粛で1名が足腰が弱ってしまって公民館まで来るのは無理だと退会しました。週に1回公民館に来ることが平均年齢74才には健康の源なのです。

大きな声を出してはいけないということで、最初は今後の過ごし方と名吟CDを聞く鑑賞会を行いました。

現在は、詩吟の大会が次々と中止や延期となる中、段級審査会と独吟大会は様々な工夫をして実施される予定です。この2つの大会を目指して吟技を磨いているところです。

マスク着用の詩吟にもだいぶ慣れてきました。

老後の楽しみを守るためにも「新しい生活様式」を踏まえた活動と「3密」を避けた取り組みを続けていきます。

公民館職員の皆様の消毒作業に心から感謝致しております。いつもありがとうございます。おかげさまで。

明日葉のように
卓球サークルあしたば　小川　和実

君津中央公民館2階多目的ホールで毎週月曜　午後6時～8時　卓球台4台を使って汗を流す。

設立は1997年、会員は現在小中学生3名を含む20代から70代の男女17名。会員は自分で出来ることを自発的に行い、卓球を通して健康維持や会員同士の親睦を深めることを目的としている。

新型コロナウイルス感染症が広がりサークル活動中断後、7月より公民館のマニュアルに従って活動を再開した。感染を防ぎながら、いかに充実した練習をするかが求められている。活動休止中の会員との連絡方法は、電話、手紙であったが、練習ができなくても定期的に集まる機会を持つことが大切と解った。コロナに負けず、くこたれず卓球を通じて、健康と体力維持、親睦を深め、生命力の強い明日葉のように息の長いサークルを継続していきたいと思う。

支え
こっこるーむ　上浦　康代

こっこるーむが再開され3ヵ月が経ちました。「再開されるのを待っていました」と温かい言葉をいただき、有難い気持ちでいっぱいです。

久しぶりのこっこるーむは、歩けるようになったお子さん、すごく背が伸びてお話も上手になったお子さん、弟や妹が産まれてお兄ちゃんお姉ちゃんになったお子さん、みなさん成長されていました。やはりお子さんの声が響くこっこるーむは良いなと実感しました。

24時間子育てをしている母さん、毎日お疲れ様です。自分時間がとれずストレスが溜まり、心が痛んでいる時があるかも知れません。しかしお子さんの成長はあっという間です。「あの頃は○○だったね」と笑って話す時がきっとときます。

我が子を、同年齢のお子さんや異年齢のお子さんと一緒に遊ばせながら、お母さん同士で子育ての話をし合ったりできる貴重な空間と時間。こっこるーむで交流を楽しむ中で「私は一人じゃないんだ」と感じていただけたら嬉しいです。

支え合う、色々な支え方があります。私も支え、支えられて今に至ります。

皆さんが毎日楽しく過ごせますように。

こっこるーむは感染対策のため、利用時間や人数に制限があります。詳しくはホームページをご確認ください。

一歩ずつ

花火が美しいのは、夜空を華やかに彩りながら儚く一瞬で消えていくからだと思っていました。でも空を見上げ感じたのは、儚さよりも力強さ、きっと花火が美しいのは、夜空に大きく花開き、消える最後の瞬間まで明るく光り続けているからかもしれません。

私達の生活環境は、しばらく困難な状況が続くと予想されます。先行きの不透明な現在ですが、流れ星の様な光を仰ぎみてふと「今できることを一つ一つ行動し、明るく前向きに進んでいきたい」と願っていました。Ⓜ